

1 林昭庚先生の談話

「台湾中医と大陸中医との違い」



林昭庚教授は、中国医薬大学で鍼灸臨床と鍼灸の EBM による科学的研究を専門にされている台湾を代表する学者である。海外との学術交流も積極的にされていて、過去日本東洋医学会にもたびたび参加されている。

——大陸の中医について、林昭庚先生はどのような見方をされているか。また台湾中医は大陸に対してどういう点で優れていると思われるか。

「大陸中医とは最近交流が増えてき、だいぶ理解が深まってきた。そのなかでいえることは、

1. 教育システムの違いが大きい

大陸では通常中医薬大学の学制は 5 年制を採っているが、台湾では大学本科生は 7 年制、学士後大学は大学 5 年+5 年で 10 年制である。また現代医学も学ぶ中西医結合の場合は、大陸は 7 年制を採るようだが、台湾ではずっと 8 年制を採ってきた。

2. 医療制度の違い

台湾では全面的医療保険制度が施行されていて、患者は現代医学と同等に、中医治療も保険制度のもとで治療を受けることができる。その点では台湾の患者は大陸より恩恵を受けている。

3. 台湾中医の科学的研究レベル

台湾中医の科学的研究のレベルは相当高いし、発表論文も多いと自負している。EBM にもとづく研究は非常に緻密に行われており、大陸の中医科学院でも台湾の中医研究の質の高さを認めている。世界の最新の研究データを集めており、研究論文はそれらを取り込んで行われている。大陸の鍼灸教科書は「純粹中医」的であるが、われわれのものは臨床研究も基礎研究も世界の最新研究データを含めて記載されており、「中西医結合」的といえる。

今回、林昭庚教授からは『新編彩図・針灸学』と『日治時代の台湾中医』の2冊の著書を頂戴した。

東洋学術出版社会長 日本中医学会顧問 山本 勝司
2012年5月